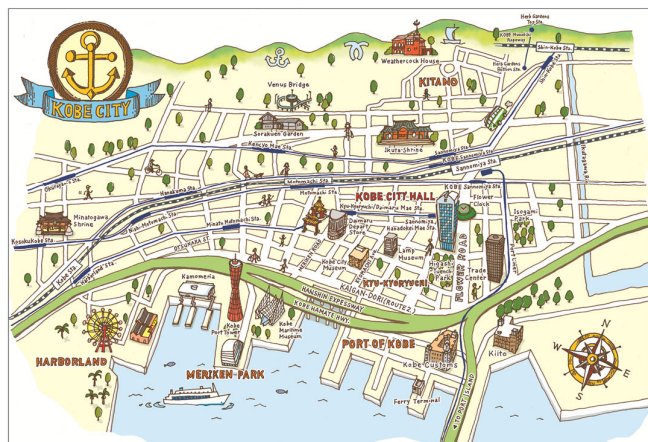


神戸の都心の『未来の姿』（将来ビジョン）  
基本的な考え方 説明付きイメージ集

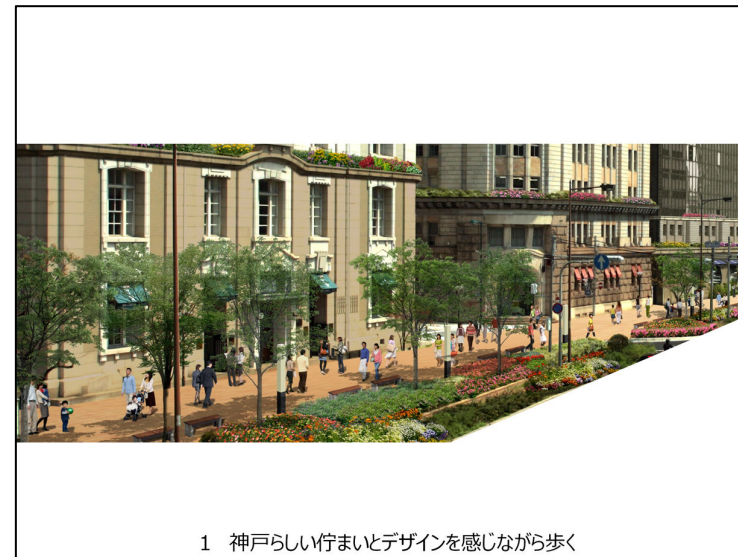


都心の将来像を、イメージパースを使って描いていきます。

こちらは都心の全体のマップです。

都心の将来ビジョンは人を中心としたまちづくりをめざしています。

今回の説明も、住む人、訪れる人、働く人それぞれの視点で示し、最後にインフラについて説明します。

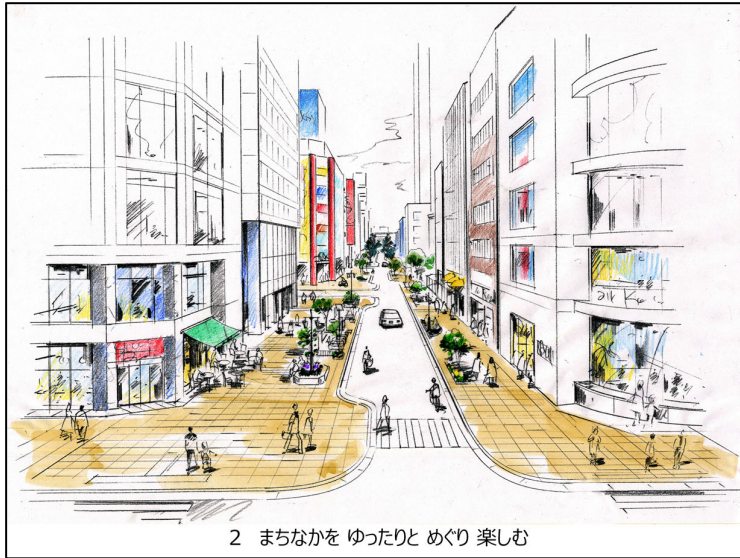


1 神戸らしい佇まいとデザインを感じながら歩く

神戸に住んでいる人を想定してください。

都心に神戸らしい景観を創りこみ、人を主役にした、歩いて楽しいまちを実現していきます。

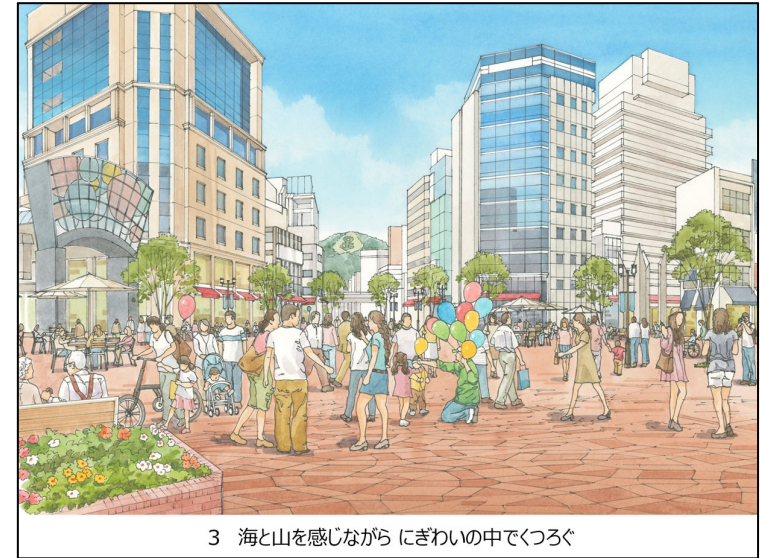
例えば、このパースのように、都心の主要な歩行者ルートに、神戸らしい佇まいとデザインを感じられる、歩く人の目線での景観を創っていきます。



2 まちなかを ゆったりとめぐり楽しむ

車道と歩道の幅を変えていく、道路空間のリデザインという取組を行い、ベンチやカフェなどが備わった、歩行者優先の心地良い空間にしていきます。

このような、高質な空間を楽しみながら、神戸らしいショッピングやグルメを楽しんでいただきたいと考えています。



3 海と山を感じながら にぎわいの中でくつろぐ

にぎわい拠点のイメージです。

このような多くの人々が集まる、心地良い、にぎわい拠点をまちなかにつくりだし、上質なライフスタイルが送れるまちを目指します。





4 港町の歴史と文化に触れ、上質な時間を過ごす

神戸にふさわしい新たなスポットとして、例えば、世界で最も美しい書店を都心に誘致してはどうか。

神戸には港町としての歴史と文化があります。

それらを活かし、知的でおもむきのある空間で、仕事帰りなどに少し立ち寄って静かに上質な時間を過ごせるような場のイメージです。



5 海・まち・山をつなぐ 大人の夜景を味わう

山や海から見た夜景も有名ですが、フラワーロードでの光のミュージアムを伸ばしていき、またこのような通りを都心に生み出すことで、まちなかでも美しい夜景を見ることができ、落ち着いた神戸らしい雰囲気カップルや観光客などに楽しんで頂きたいと思います。



6 世界に誇れる美しい夜景がまちを彩る

港町としての夜景をさらに美しくしていくことも考えています。

例えば水際をライトアップし、港の形が美しく見えるようにしたり、造船工場のクレーンをライトアップしてこれまで以上に魅力を追加していくことを考えていきます。



7 神戸らしい山と海の景観を守る

こちらはパースではなく現況の写真です。

神戸らしい海と山に囲まれた美しいまちを守っていくためには、建物高さのあり方は大事な要素だと思っています。

50年後、100年後を見据えて、商業地域への高さ規制の導入など、景観維持のための規制誘導を行っていきたいと思っています。





8 おもてなしの心でお出迎え（新神戸）

ここからは神戸を訪れた方々に映る、都心の将来像を紹介します。

到着される玄関口でのおもてなしです。

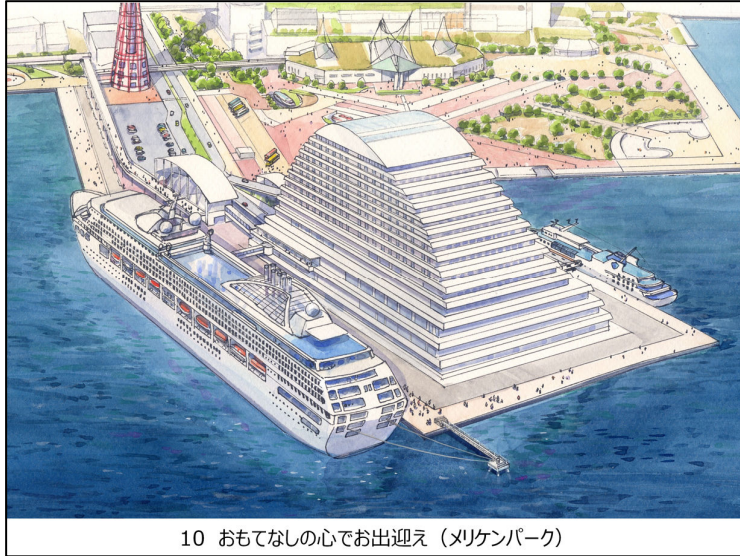
新幹線での玄関口にあたる新神戸駅を、神戸を印象付ける、明るく美しい空間にリニューアルいたします。

さらに、歩行者が移動しやすくなるよう、工夫を行っていきます。



9 おもてなしの心でお出迎え（ポートターミナル）

海の玄関口であるポートターミナルについても、港町神戸を感じさせる空間にリニューアルいたします。



10 おもてなしの心でお出迎え（メリケンパーク）

海の玄関のリニューアルだけでなく、大型客船が停泊できる場所を増やし、今まで以上に大型客船の誘致を行い、たくさんの外国人観光客に神戸に来ていただきたいと思っています。

駅や港など、神戸の玄関口を心地良いものにし、神戸を訪れた誰もが、着いた瞬間に神戸を感じられる様な、ワクワクする場所にしていきたいと考えています。



11 おもてなしの心でお出迎え（三宮）

最大の玄関口である三宮駅周辺についても、もちろん素晴らしい場所となるよう、再整備の構想を練っております。

こちらはまた別の機会でご説明したいと思っております。





JR三ノ宮駅の東側の写真です。

この辺りに鉄道の玄関口として、新たな改札口ができれば、都心の東エリアの活性化を担う、重要な拠点になると考えます。

新たな魅力スポットや新しいビジネスが生まれる起爆剤として、その実現に取り組んでいきたいと思えます。



バスの玄関口として、三宮駅周辺にたくさん集まっている中長距離バスについても、もっとわかりやすく使いやすいものにするため、新たなバスターミナルの整備を考えています。



14 知りたい神戸がわかる

神戸を訪れた方が迷うことなく、神戸を満喫して頂けるようにします。

わかりやすく使いやすい情報がすぐに得られるように、インフォメーションセンターの再整備を検討します。

また、案内サインやWi-Fiの充実にも取り組んでいきます。



15 素敵な人と、新しいアイデアに出会う

ここからは神戸で働く人の視点から紹介します。

神戸での新産業創造について、新しいビジネスを創り出していく仕組みをつくり、その実現を加速させる必要があります。

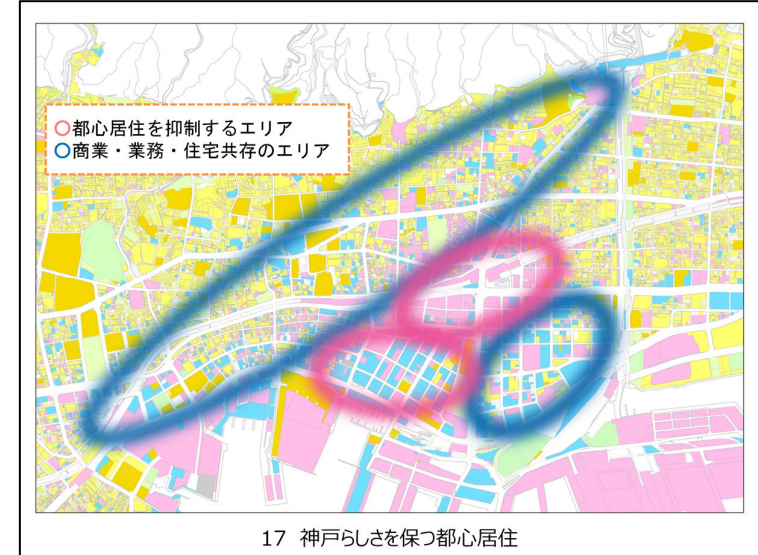
都心の便利な場所に、ビジネスの卵を支援したり、投資家が集まる仕掛けを備えた、人とアイデアが集まる場を設けたいと考えています。





こちらは東遊園地のイメージです。

例えば東遊園地のように都心にある公園をもっとたくさんの人が楽しく利活用できる場にし、ここにパソコン持ち込んで仕事をしたり、家族や仲間と遊んだり、本を読んだり、緑に囲まれた空間で、自由に楽しみ、交流できる場所にしていきます。

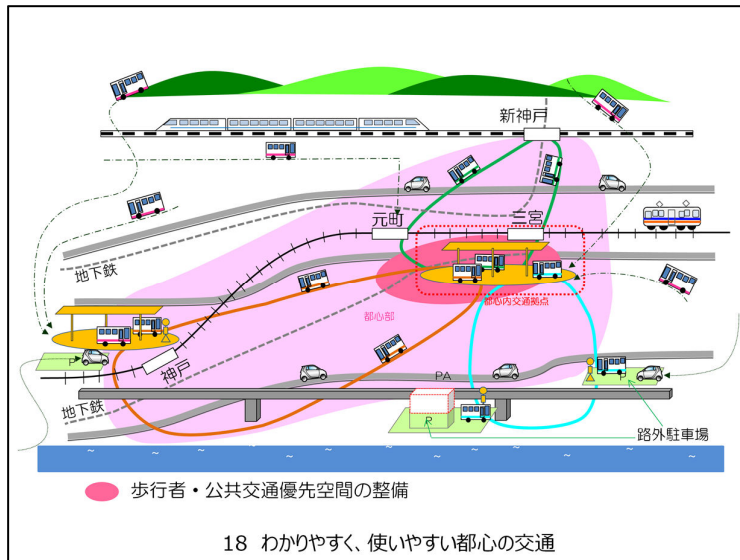


これからの都心は商業・業務に加え居住がどんどん増えてくる傾向にあります。

都心を楽しみ、にぎわいが創出されることは素晴らしいことですが、居住に偏りすぎると都心としての機能や魅力が損なわれる恐れも出てきます。

都心の高層マンションはどう考えるべきかなど、神戸らしさを維持する都心居住のあり方を議論していかなければなりません。

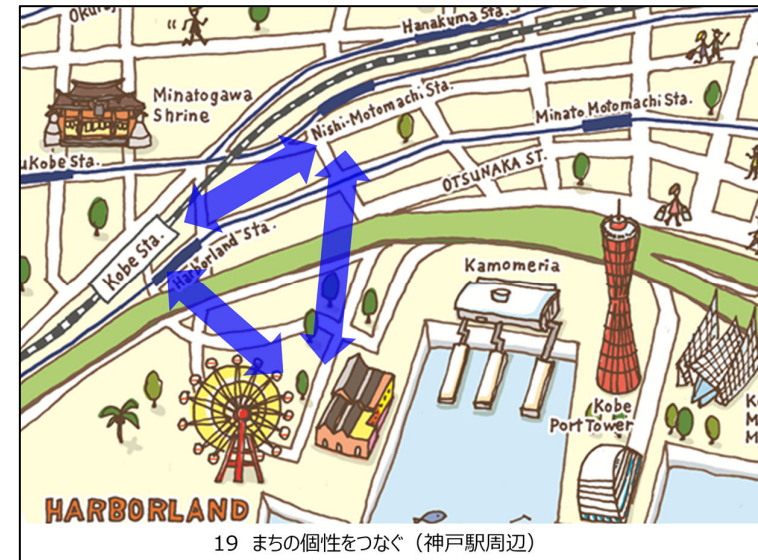
これは都心の未来の姿を語るうえでの重要なテーマです。



ここからは、都市基盤、すなわち都心のインフラについて説明します。

まずは都心の交通ですが、人中心のまちにしていくなめには、都心が歩行者と公共交通を優先した空間になることが求められます。

魅力的なエリアへ快適に移動していただけるように、都心の交通体系を見直したり、交通手段の充実を図っていきます。



歩いて楽しむということが最優先です。

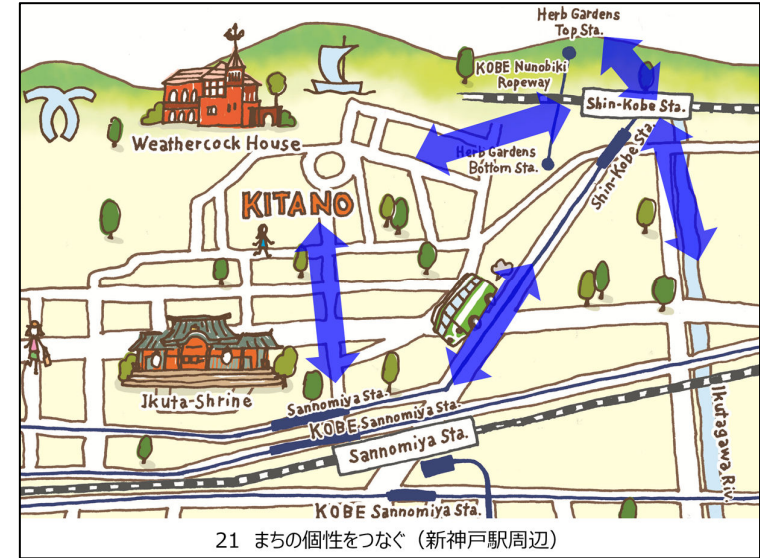
例えば、最近人が増えているハーバーランドと神戸駅や元町商店街をつなぐルートを整備し、楽しみながら回遊して頂きたいと考えています。





20 まちの個性をつなぐ (DUO神戸浜の手)

取組の一つとして、神戸駅とハーバーランドをつなぐDUO神戸の地下街をリニューアルいたします。



21 まちの個性をつなぐ (新神戸駅周辺)

神戸は坂の街です。

新神戸駅と周辺地区をつなぐルートや、山手幹線を渡るルートは、歩きやすいものではありません。

このような坂の多い場所でも気軽にめぐりやすくしていきたいと考えています。

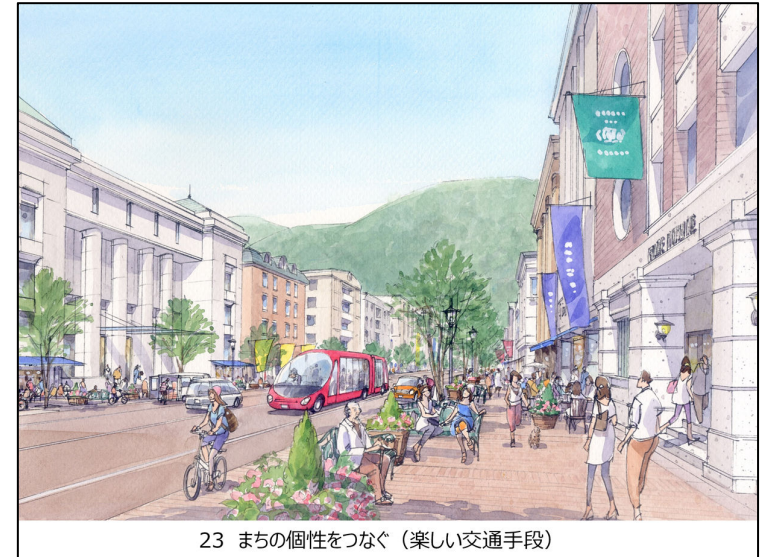


22 まちの個性をつなぐ（新神戸-北野遊歩道）

取組の一例として、新神戸駅と北野地区をつなぐ遊歩道をイメージしたものです。

遊歩道の整備により、新神戸と北野がぐっと身近に感じられるのではないのでしょうか。

このような視点で他のルートについても歩行者の目線に立って検討していきます。

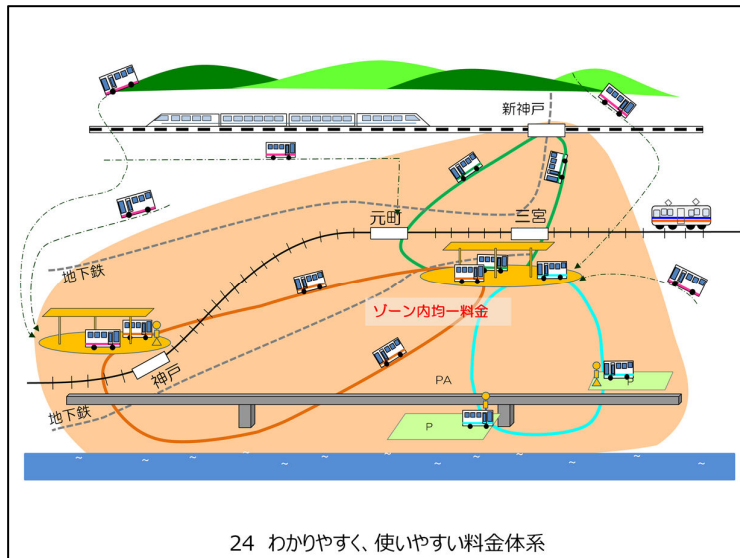


23 まちの個性をつなぐ（楽しい交通手段）

ビジネスやデユースを考えて、回遊性が高く、便利な交通体系も整える必要があります。

回遊性を向上させる新たな交通手段として、LRTやBRTの導入の可能性を検討したいと思います。





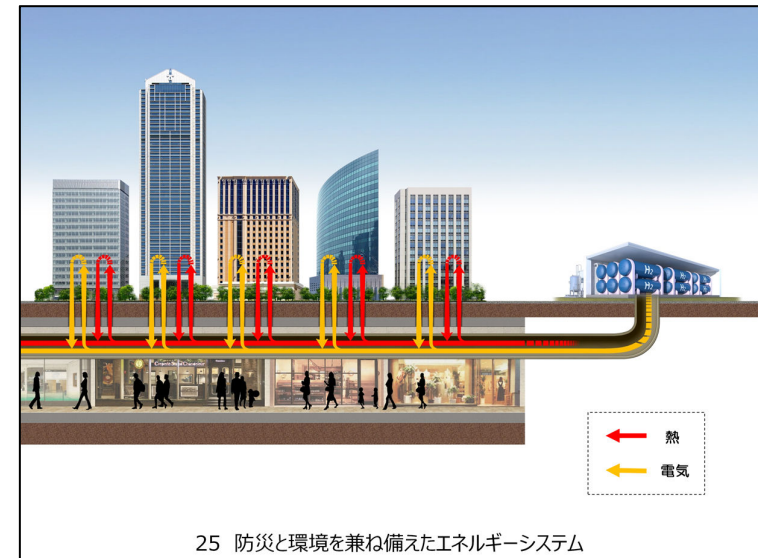
24 わかりやすく、使いやすい料金体系

使いやすいという点では、公共交通機関の料金を一定のエリア内において均一にする方法があります。

例えば安い料金で乗り放題となるゾーン内均一料金制度を導入すれば、移動しやすくなり、都心のにぎわいも増すのではないのでしょうか。

これらの交通手段の構築には市税をどこまで投入するか議論が必要です。

事業採算性だけでなく様々な角度から検討していこうと思っています。



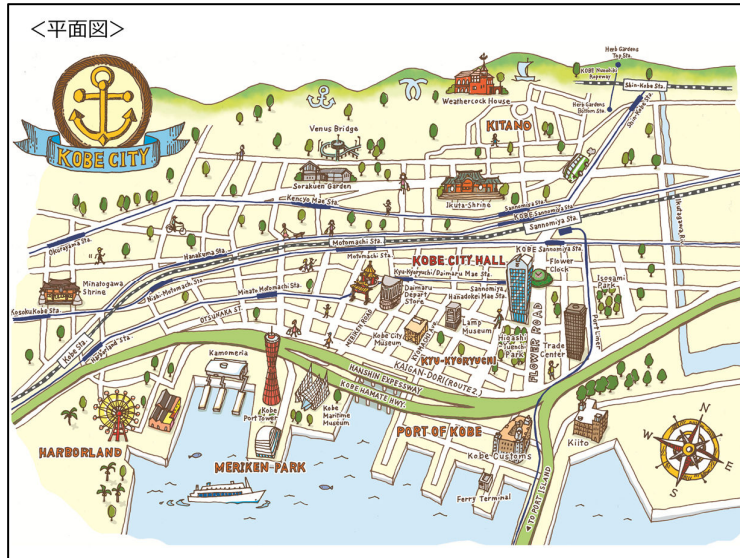
25 防災と環境を兼ね備えたエネルギーシステム

最後に、都心のエネルギーシステムのイメージです。

分散型電源として、水素エネルギーを導入することを検討していきたいと思っています。

また、サンチカなどの地下空間を利用して周辺のビルを電線と熱導管でつなぎ、電気と熱の相互融通を行います。

分散型電源と相互融通により、普段は環境に優しく、また、非常時においてもエネルギーの確保ができ、安心して活動を行ってもらえるようにしていきたいと考えています。



これからの神戸の都心は、住む人、訪れる人、働く人が本当に心地良く楽しめるライフスタイルが実現するまちを目指してまちづくりを進めていきたいと考えています。

そして、「何か神戸が面白そうだ」と感じて頂き、神戸に興味を持ち、また神戸に携わるひとが神戸を誇りに思うようなまちにしていきたいと考えています。

今回発表する神戸の都心の将来ビジョンの基本的な考え方は以上です。

今後もみなさんのご意見を伺いながら、新年度の上半期中の策定に向けて取り組んでいきます。